



山形県立新庄北高等学校

2年

加藤 響さん

2年

川又 美月さん

THEMA

発表テーマ／内容

田んぼアートで地域を元気に

新しい視点を加え、

田んぼアートを観光資源に

地域に数多くある田んぼを観光資源として活用できないか、という思いから「田んぼアート」に着目しました。「田んぼアート」とは、キャンバスに見立てた水田に葉や穂の色が異なる稲の苗を植えていき、巨大な絵に仕上げていくもので、観光目的だけでなく、農業体験を加えた新庄・最上地域独自の「田んぼアート」を提案します。

高齢化、人手不足など

見えてきた課題

先例地や農家の方にヒアリングを行い、メリットと問題点についてリストアップしました。地域の賑わいにつながっているという話があった反面、農家の方から聞こえてきたのは高齢化や人手不足による継続の難しさ。「農家へのメリットがなく、地域内で盛り上がっても数値に現れない」「他地域でも行っているのに観光の目的になりにくい」「制作者同士

のつながりががない」などの課題が見えてきました。

新庄・最上ファームステイ プロジェクトで農業体験

そこで2つの観点から解決法を考えました。一つは農家に泊まり込んで農業体験をする「新庄・最上ファームステイプロジェクト」。2泊3日の宿泊プランの中で、田植えや稲刈りなどの農作業を手伝いつつ、最上川舟下りなどの観光を楽しんだり、地元の人たちの温かさに触れてもらう

機会をつくれます。農家にとっては人手不足解消につながるというメリットがあります。

東北田んぼアート スタンプラリーで誘客を

もう一つは「東北田んぼアートスタンプラリー」。田んぼアートを見に訪れる人を増やしたり、制作者同士のコミュニティづくりを目的とした、デジタルコンテンツを活用した取り組みです。コミュニティをつくることで

支え合いながら制作活動を継続させることができ、東北各地の田んぼアートへの誘客効果も図れます。具体的にはスタンプラリー用のアプリをダウンロードし、東北各地の田んぼアートに設置されているQRコードをスキャンします。スタンプを集めてSNSで発信すると特産物ももらえるなどの特典も用意します。田んぼアートの見頃となる7月中旬～8月中旬に鉄道をフリーパスにすればさら

に誘客が期待できます。

山形の魅力を 見つけられていないだけ

「山形には何も無い」とは思いません。あることを見つけていないだけではないでしょうか。身近にある田んぼを活用し、全国の人に私たちのまちの魅力を発信!「田んぼアート」で山形を元気にしましょう。

COMMENT

審査員コメント

減反政策がとられた昭和時代や食生活が大きく多様化してきた平成時代を経て、田んぼはその価値が変遷してきましたが、田んぼアートは、そうした中で田んぼの付加価値を高めていく手立てとして行われるようになった背景があります。おふたりの提案には、アートだけでなく、地域の活性化をどう数値化していくかという展開案と、田んぼを自分たちの資産として捉えた活用法の具体案が示されていたと思います。最先端の切り口で田んぼの価値に目を向けた素晴らしい内容でした。

IMPRESSIONS

メンバーの感想

田んぼアートが本当に地域おこしに役立っているのか疑問に思い、1年次の探究の時間で研究を始めました。活動を継続していくために、収穫したお米を使った新たな商品をつくり、「田んぼアートは食べられる」こともアピールしていきたいです。

他の高校生のアイデアは自分では思いつかないような

内容ばかりで、自身の考えの幅が広がりました。山形県だからこそその幸せを見つめ直すいい機会になり、10組のアイデアが実現されれば、さらに幸せを実感できるようになるのではと思いました。これからを担う私たちが自分の住むまちの幸せについて真剣に考えることが、県全体の幸福度をより上げることにつながると感じます。





山形県立東桜学館高等学校

1年
菊地 聡太 さん

THEMA

発表テーマ／内容

学校の最寄り駅で 発車メロディーとして校歌を流す

駅メロで

通勤通学の問題を解決

毎日、電車で東根市内の高校に通学しています。通勤・通学時は非常に混雑し、発車の合図の笛が聞こえずに車内で転倒する乗客がいたり、危険な状況を目にすることもありません。また、私が通う学校は開校から7年という新設校のため、校名を聞かれて答えても知らない人が多く、知名度の低さにがっかりすることもある

ります。そこで、この2つの問題を解決するため、『駅メロ』に着目しました。

地域を象徴するのは 沿線の高校の校歌

神田駅であれば「モンダミン」、水道橋駅が「闘魂こめて」、東京テレポート駅は「踊る大捜査線」というように、都内の各駅では『駅メロ』を導入しています。共通するのは地域と関連性があり、その場所を象徴する

曲。山形県ならどんな曲があるかを考え、思いついたのが校歌でした。沿線には多くの高校があります。校歌を流すことで話題性が生まれ、学校に対する認知度も高まると思います。具体的には、さくらんぼ東根駅なら東桜学館というように、各学校の最寄り駅で校歌を『駅メロ』として流します。運行に支障が起きないように、ワンマン列車の運行時と早朝、20時以降（選挙カーの終了時間）は

流しません。山形駅のように複数の高校が最寄り駅として利用している場合は、ホームや行き先によって曲を変えるようにします。

多くのメリットを生む 校歌の『駅メロ』

得られる効果は「危険回避」と「騒音感・駆け込み乗車の軽減」の2つ。危険回避の面では列車の動き出しに気づくことで転倒がなくなり、安全な通学・通勤に結び付きます。また、

お茶の水女子大学の研究でも、『駅メロ』を流すことにより騒音感・駆け込み乗車の軽減ができることが立証されています。

学生の立場からすると、校歌が流れることは自分の学校に誇りを持つことにつながり、地域で大切にされている、認められていることを実感できると思います。自己肯定感が高まり、学業や部活、課外活動において意欲の向上にもつながり、地域の

人や卒業生にとっては、母校を懐かしみながら日々の活力源になることでしょう。

暮らしやすく、 幸せな山形の実現のために

校歌の『駅メロ』導入は年齢問わず幅広いメリットがあります。未来を担う若者、子どもたちが山形の代表だという自覚を持てれば、さらに暮らしやすく、幸せな山形の実現につながると感じます

COMMENT 審査員コメント

自分の学校をもっと好きになってもらおうという熱意がすごく感じられる良い発表でした。生徒が安全に楽しく通えることを前提に、発車ベルが聞こえないほどホームが混んで危ない状況があったり、新設校だから知名度が低いという課題に着目したのは実際通っている高校生ならではの視点だと感じました。何気なく聞いているメロディーが校歌だったら、ちょっと憂鬱なときもがんばろうと思えるかもしれないし、自分も社会と関わっているという肯定感にもつながるはず。県民が地域に目を向けるきっかけにもなると思います。

IMPRESSIONS メンバーの感想

近年、クールチョイスの考えから公共交通機関の利用が促されています。しかし、一向に車の利用率が下がらない山形において、このアイデアを実施することで県民の公共交通機関の利用を促進し、かつ環境に対する意識向上につながると考えています。

経済状況がそれほど良くない現代だからこそ、創造性や自由な発想を大切にするという考えが必要だと思います。



きっかけ

校歌を駅メロとして流そう！



知名度&電車内の問題を解決！



山形県立新庄北高等学校

2年
皆川 牽誠 さん

THEMA

発表テーマ／内容

新庄に道の駅は必要か？

道の駅が地域に与える 効果を考える

探究の授業で、新庄で道の駅が建設される計画が進められていると知りました。しかし、単に道の駅をつくるだけでは地域の人も遠方から来る人も少ないと思いました。道の駅には、ドライバーが24時間利用できる「休憩機能」、道路や地域の情報を提供する「情報発信機能」、道の駅を接点に活力のある地域づくりを行う「地域連携機能」の3つの機能があり

ます。どうすれば地域内外のたくさんの方が訪れる、より地域に根ざした有益な施設になるのか興味を持ちました。

浮かび上がった 5つの問題点

高速道路の近くに道の駅を配置し、休憩機能と情報発信機能を最大限に活用することで利益をあげることができるのではないかと考え、2つの団体(新庄商工会議所、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学

科新庄スタジオ)にヒアリングを行ったところ、地域外の人がかかるかわからない、道の駅の必要性(インフラの発達)、金銭面、利用者のリピート、地域にもたらすメリット、この5つが問題点として浮かび上がってきました。

特色のある2つの施設で 賑わいをつくる

道の駅のモデルとして自分が考えているのは、宮城県にある東北最大規模のイオンモール新利府で、その

特徴は、それぞれ異なる役割を持つ南館と北館に分かれていることです。広域からの集客を目指す南館にはアミューズメント施設や提案型のテナントが入り、地域密着型の北館には地元の人が日常をより便利に過ごすための施設が入っています。これを道の駅に応用したいと考えました。北館は地域連携機能を発揮するため高齢者の憩いの場を設けるなど地域密着型にし、郷土料理を提供したり、地元飲食店と農家の人たちがつなげる場をつくります。南館は昼と夜の2部制として24時間営業にし、居酒屋を含めた飲食店や洋服店

の他、ボウリング場などのレクリエーション施設に加え、託児所も設置します。フロアには歩行ルートを示すシートサインを表示することで、初めて来た人でも迷うことのないようにします。

3世代が交わる コミュニティを大切に

若者やファミリー層は地域外に行って遊ぶことも多いと思うので、若い人たちが利用でき、高齢者が憩える場をつくることが必要だと考えます。子ども世代、子育て世代、高齢世代の3つの世代が交わるコミュニティを形成することができるのが

この道の駅の良さです。最上全域をエリアとして捉え、県内外から訪れた人達を新庄経由で各地に分散させることができると思います。

道の駅の建設について考えることで、山形(地域)に何があるか、そしてこれからの山形(地域)に必要なことはなにかが見えてきた気がしました。

COMMENT 審査員コメント

道の駅に限らず、施設を造るときは同様の課題が発生します。どこにターゲットを置いてマーケティングを行っていくか、それを考える視点としてイオンモール新利府をモデルにしたのはとても良かったと思います。地元では当たり前でも、他の地域に住む人たちにとっては魅力的なものだったりするので、地域密着型の北館も、県外客が訪れても楽しめるコンテンツに仕立て、さらに人を呼び起こすことが大事だと思います。

IMPRESSIONS メンバーの感想

当日は、準備段階で考えていたことや取材に行き感じたことを思い出しながら、自分らしいプレゼンができたと思います。他の高校生のプレゼンやアイデアは、熱意

とともに具体性やこれまでの努力が伝わってくる素晴らしい発表ばかりでとても良い刺激になりました。



検証結果

- ・地域に何があるかと何が必要かを考えることでこれからの地域に必要な事が見えてきた。
- ・若者や家族が地域外で遊ぶことが多いので若い層の利用は、高齢者の憩いの場にすることも必要なことだと思った。



山形県立天童高等学校

2年
本田 彩佳 さん

2年
村岡 莉有 さん

THEMA

発表テーマ／内容

伝えたい!!!山形の訛り(方言)!!!

訛り(方言)を知らない

話せない若者たちが増加

祖父母と生活している人たちは普段の生活の中で訛り(方言)を耳にしますが、近年、三世代世帯の減少で訛り(方言)を話せない、知らない子どもたちが増加していると感じます。そこで、訛り(方言)がどれだけ大切にされているのかを把握し、もっと多くの人に知ってもらうための解決策を考えました。

若者の意識、

伝えていくべきが8割以上

若者がどう思っているのかを知るため、天童高校の2年生を対象にアンケート調査を行いました。訛り(方言)は後世に伝えていくべきかの問いに対して「思う」と答えた人は85.7%、「思わない」と答えた人は14.3%という結果でした。「思わない」の理由には「訛り(方言)が通じない人がほとんどなので会話が成り立

たない」「何を言っているのかわからない」などの回答がありました。

知っていますか?

山形の方言

山形の方言は内陸と庄内に分けられ、さらに内陸の方言は、村山、最上、置賜の3つに分かれています。

(例) 生意気→あがすけ、疲れる→こわい、食え→けえ、食べる→くう、しないといけない→さんなね、さしつ

かえない→さすけねえ、あーだこー
だ→すべたのこべたの

訛り(方言)を使うメリットは、親近感がわく、共通の言葉を使うことで特別感がある、お互いの距離が近づくと、親密度が上がる、その地域の伝統を受け継ぐことで地域の特徴として他県に紹介できる、訛り(方言)でしか伝わらないニュアンスがある、年配者とのコミュニケーションがとり

やすい、などが挙げられます。

方言を話すキャラクター 音声看板でアピール

そこで、音声看板に訛り(方言)を話すキャラクター(例えば、きてけろくん)を登場させるアイデアを考えました。キャラクターを活用することで子どもから大人まで親しみを持ってもらうことができます。県内外から集まる道の駅などに設置すれば多くの人の目に触れ、訛り(方言)を知って

もらう機会になると思います。たまにレアな言葉を入れて遊びの要素も加えていきながら、小さい子どもたちにも覚えてもらうことで、訛り(方言)が次世代につながっていくことも期待できます。受け継がれてきた山形の言葉を、山形県の若い世代の人にもっと使ってほしいし、他県の人にもその良さを知ってもらいたいです。

COMMENT

審査員コメント

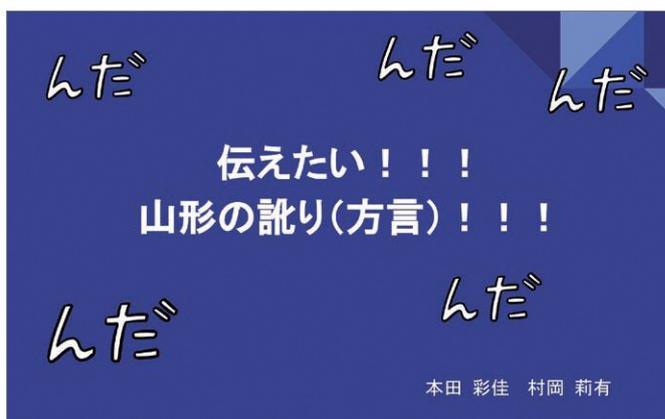
最近の高校生は標準語で話す人が多くなってきているので、着眼点がおもしろいと思いました。山形の訛りは、何かを持っていないとできないということではなく、誰でも手に入れることができる貴重な財産です。すぐに取り組みそうで、実現可能なのも方言のいいところ。プレゼンありがどさまでした。

IMPRESSIONS

メンバーの感想

観光の授業で山形の良いところを考えた時に訛り(方言)が思い浮かびました。訛り(方言)を恥ずかしいと思う人が減り、自分の地域にしかない大切なもので、むしろ自慢できるものだと思ってくれる人が増えればいいなと思います。形のない財産だからこそ守られ、継承されてい

くことを期待しています。今回コンテストに参加したことで、地域のつながりが強い田舎だからこそその魅力があると実感しました。



本田 彩佳 村岡 莉有



山形県立山形中央高等学校

1年
杉山 直史 さん

1年
黒柳 葉月 さん

THEMA

発表テーマ／内容

山寺ゲームブックで 山形の知名度を上げるアイデア

山寺を基点にしたアイデアで 山形を幸せにしたい

東京ディズニーランド(シーも含める)のリピート率は90%以上です。対して、私たちが調査した「山寺の訪問回数アンケート」の結果ではリピート率は42.7%と、あまりにも低いと感じました。調査して感じたのは、山寺の多様な文化や魅力を発信しきれていない印象があり、コロナ後の観光

客の回復にも影響があるのではないかと。事実、客足はコロナ禍前の水準に届いていないようです。そこで、「ゲームブック」を使って観光客数を増やし、山寺を基点に山形を幸せにするアイデアを考えました。

ゲームブックは既存媒体の いいところ取り

ゲームブックとは「読み手の選択に

よって物語の展開が変化する本」のことで、1980年代にブームになりました。ゲームブックは「情報を盛り込みやすい」「無料」「軽い」「旅行前から旅行後まで楽しめる」など、観光ガイドや観光マップ両方の利点を含んだ最適な媒体です。また、世界中の観光地をテーマにしたゲームブックもあり、その効果が期待できます。

街を知るために

フィールドワークを実践

ゲームブックを作成するため、山寺で6回のフィールドワークを行いました。4回目の時は、観光客が多く訪れる「えんどう本店」で話を聞き、外国版ゲームブック制作のヒントを得ました。また、「芭蕉茶屋」からは山寺に関する貴重な情報が掲載されている文献をお借りしました。ゲームブックは2024年中に完成させ、山

寺観光協会や各店舗、山寺駅、山形駅などさまざまな場所に置いてもらうことを考えています。若い人たちに関心を持ってもらうため、山形市内の高校への配布も行っていきたいです。

リピーターの増加に貢献、 山寺のみなさんの笑顔のために

ゲームブックの制作にあたっては、精神面を含めて、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科のみなさ

んに支えていただき、たくさんの学びを得ることができました。

今後はインバウンド需要の増加を見込んで英語版を作成したり、ダウンロードを可能にしていくことなども考えながら、リピーターの増加に貢献し、山寺のみなさんに笑顔になってもらうことを目標にがんばっていきます。

COMMENT

審査員コメント

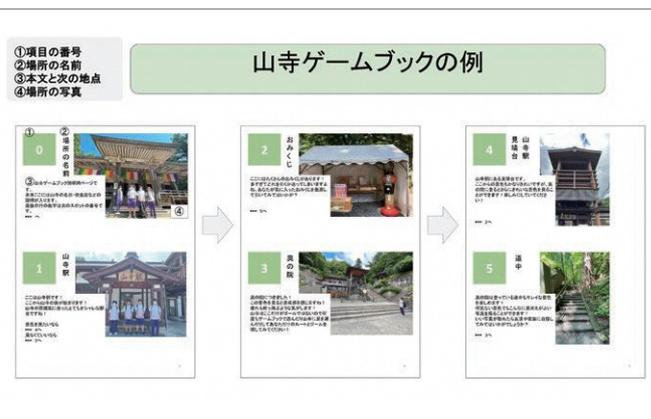
ゲームブックという存在を初めて知りましたが、大人では気づかない視点で、新鮮に感じました。山寺が人で賑わうことは山形に賑わいをつくり、ひいては幸せにつながります。リピーターを増やすためにはワクワク感が大事です。ゲームブックによってこれまでの山寺にはないワクワク感や魅力を伝えることができるのではないのでしょうか。先進事例で成功しているところがあるとのことでしたので、山形版をぜひ実現してください。

IMPRESSIONS

メンバーの感想

山寺に着目したのは、所属する文理科学部の先輩が、山形市の七日町や蔵王温泉をフィールドに地域版ボードゲームを制作し、地域活性化のための探究活動を行っていたことがきっかけです。先輩たちとは違うフィールドとして考えた時に、山寺が候補に挙がりました。

今回コンテストに参加してみて、高校生の力を結集すれば、山形の魅力を発信しながら幸せをつくることができると感じました。機会があれば来年もこうしたコンテストに参加したいです。





山形県立新庄北高等学校

2年

須藤ひかりさん

2年

上嶋千愛さん

THEMA

発表テーマ／内容

山形のおつまみパッケージデザイン大改造計画

“おつまみ”で

山形のおいしさを伝える

「山形県にはさくらんぼのイメージしかない」。生徒会で宮城県の高中生と交流したときに言われたことが提案のきっかけです。山形には他県に劣らないおいしい食べ物や、魅力的な景色などがたくさんあります。しかし、隣県の人にすら認知されていない現状を知り、とてももったいないと感じました。そこで、サイズ感が程よく、手軽に手に取って食べて

もらえるおつまみに着目し、パッケージデザインの企画を考えました。

高校生が抱く

おつまみのイメージは…

おつまみという、酒の肴のイメージがあります。私たちと同年代に山形の食べ物を知ってもらうことが目的なので、ターゲットを高校生とし、55人にアンケートを行いました。その結果、「おつまみをよく買う」と答えた人は23人でした。休み時間

にさきイカなどを食べている友人がいるので、高校生からもある程度の需要があると考えられます。反面、「人前では食べづらい」「おじさんみたいだねと言われそう」「学校で食べるには勇気がいる」との意見も多く見受けられました。実際、私たちも味に迷ったときは“パケ買い”をします。パッケージのデザインを変えることは購入してもらうためにとても有効だと思います。

様々な意見をもとに パッケージをデザイン

そこで、買いにくさ、食べづらさを感じるパッケージはどういうものなのか、イカ系の4つの既製品を例に取り、アンケートを行いました。食べづらさを感じる理由は「渋い、古めかしい、ダサいので恥ずかしい」「一目でおつまみとわかってしまう」「チャックがないと食べ切る必要がある」などで、どんなデザインなら食べやすいかの問いには、「可愛いデザインやイラスト、キャラクターが入っている」「シンプルでおしゃれなデザ

イン」という答えが多かったです。これらの意見を踏まえて8通りのパッケージを考え、さらに調査しました。すると、可愛いらしく、おつまみだとわからないデザインのもの好まれ、中身が見えるデザインや、リアルなイカの絵は敬遠されることがわかってきました。

アイデアを網羅した パッケージが完成

「イラストや写真のような見る情報だけでなく、読む情報も入れたほうが良い」「青色は食欲を減退させてしまう」「ネオンカラーは繁華街のイ

メージがあるので高校生には向かないのでは?」「コスト面から特殊な形のパッケージを作って商品化することは難しい」といった東北芸術工科大学の先生のアドバイスなどをもとに、高校生向けの視覚情報を入れるなどして改良を重ね、デザインを完成させることができました。

私達が関わったパッケージが他県の方たちの目にとまることで山形に興味を持ち、訪れる人が多くなればうれしいです。

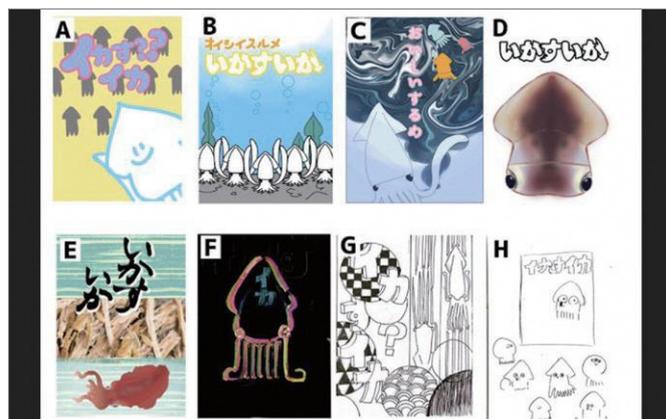
COMMENT 審査員コメント

こんなおつまみがあったら買いたいなと思いながらデザインを拝見しました。全国のお土産品のパッケージもパステルカラーでおしゃれで女性が好むようなものや、気の利いたプレゼントとして男性も買っていきたくなるものが多いです。山形にはおいしい食べ物がたくさんあることを知ってもらうために「山形ではこう親しまれている」などの情報を入れれば、さらに魅力的な商品になると思います。

IMPRESSIONS メンバーの感想

山形の問題をポジティブに捉えている他校の皆さんの発表を聞きながら、これからの山形がもっと楽しみになり、励みにもなりました。そして、地域の問題を暗く考えるのではなく、前向きに取り組めば変わることもあると

感じました。今後の探究活動や生徒会活動に活かしていきたいです。





山形県立長井工業高等学校

3年
岩崎 華音 さん3年
小笠原美里 さん

THEMA 発表テーマ／内容

オリジナルマップ・パズルを作るワークショップから
山形の魅力を知る伝統の祭りから
地域の魅力に気づく

私たちは「ながい黒獅子祭り」が大好きです。5月下旬に長井市で行われる行事で、各神社の黒獅子が市内を巡ります。推しポイントは神社ごとに黒獅子の顔や舞いの異なる黒獅子が、一堂に披露されることです。しかし、こうした伝統芸能は後継者不足に直面していると聞きました。その理由は①少子高齢化、若者の県外転出で祭りに参加する人が減

少している、②例大祭の日にちがわからず、祭りに触れる機会が少ない、③神社がない地区もあり、参加の仕方がわからない、この3つです。そこで、長井市の代表的な伝統の祭りから地域の魅力に気づききっかけとなる企画を考えました。

遊びを通して
「黒獅子」を発信

子どもたちが黒獅子や祭りをどう思っているのかを知るため、市内の児童センター取材しました。「園児

の好きな遊びにパズルがある」「パソコンと歯打ちするところがかっこいい」「警護と獅子が戦うところがかっこいいと思っている」という話を聞き、加えて、子どもが楽しいと思うことは、大人も関心を持ってくれることがわかりました。この結果から、黒獅子の魅力を、遊びを通して発信し、大人と子どもが触れ合える接点をつくることで地域活性化につなげられると思いました。

楽しく知ろう!

「黒獅子パズルおしっさま」

考案したのは「黒獅子パズルおしっさま(獅子)」です。ターゲットは長井市内の園児や学生、そして周りの大人たちです。パズルのように、各神社の獅子が印刷されたピース台にピースを当てはめていきます。ピースの裏に印刷されたQRコードを読み取ると、各地域の神社の場所と黒獅子の動画を見ることができます。公共施設に配り、若い人たちにも遊んでもらえるようにデザインは可愛い

らしくします。高齢者にはQRコード利用の勉強会を開いたり、孫から教わったりすることでふれあいも生まれます。

アイデアを形にすることで 魅力を伝えるきっかけに

「黒獅子パズルおしっさま」のメリットは、「長井に様々な特徴の獅子があることを知ってもらえる」「若者に黒獅子を知ってもらうきっかけになる」「子どもたちが遊んでいる様子を見て大人も一緒に遊ぶことができる」などです。企業や地域の大人た

ちが山形の魅力に気づききっかけにもなってほしいです。

この企画を通して、自分たちにとってもいろいろな気づきがありました。アイデアを形にすることで地域の人たちに魅力を伝え、受け継いでいく契機になると感じています。

COMMENT

審査員コメント

県外から人を呼んで来て山形を盛り上げようという人がいる一方で、山形に住む人たちが地域の未来をより良く、いかに創造していくかに重きをおいたとても良い企画だと思いました。私自身は祭りを見たことはありませんが、長井の道の駅に飾ってある黒獅子がすばらしく、行くたびに写真を撮っています。それだけ魅力のあるものなので、若い人たちに受け継いでいってほしいです。

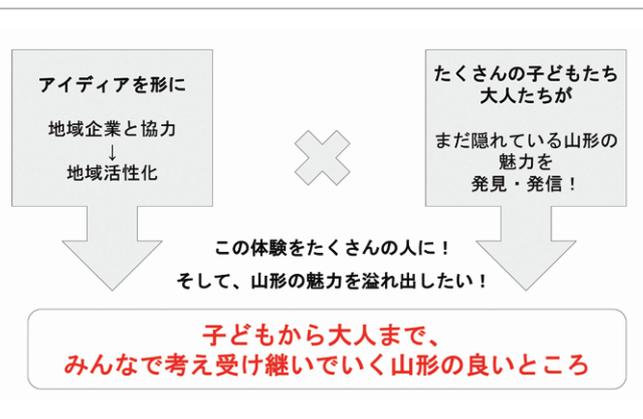
IMPRESSIONS

メンバーの感想

このアイデアを形にして地元企業と協力することで、地域活性化に繋げることが可能です。まだ隠れている山形の魅力を発見し、多くの人に発信していけば、山形の良いところを受け継いでいくきっかけになるのではないかと期待しています。

コンテストに参加して、いろんな視点から山形を良くし

ていこうという他の高校生のアイデアを知ることができました。山形のすばらしさに気づくことができ、山形に住んでいてよかったと思いました。プレゼン資料の作り方から発表の仕方まで、東北芸術工科大学の先輩方とのメンタリングを通して学ぶことができたのも良かったです。





山形県立山形東高等学校

2年 鈴木 沙都 さん

2年 遠藤 百恵 さん

2年 佐藤 瞳 さん

THEMA

発表テーマ／内容

手話×やまがた

かるたをアイテムに 山形の魅力を手話で

探究活動で手話について調べることになり、手話を楽しく学べるツールを作ろうと考えたのが提案のきっかけです。考案した「やまがた手話かるた」は手話と山形を掛け合わせたもので、ターゲットは小学生です。遊び方は、読み手が山形に関する言葉を手話で表現し、それに合った絵札(取り札)を取ります。読み札には手話の仕方やその意味を表すイ

ラストを描いておきます。かるたにすることで聴覚障がい者同士、聴覚障がい者と聴者、聴者同士のように、誰もが楽しく山形のことについて学び、遊ぶことができます。手話を身近に感じてもらえると同時に、山形の良さを伝えられる一石二鳥のアイテムです。

手に取ってもらえる ポップなデザイン

小さい時、私たちはかるたでひらがなやことわざを覚えました。同じよ

うに手話を言語活動の一種として取り入れてもらえるように、このかるたを普及させたいと思っています。子どもたちに、より受け入れてもらいやすくするため、ふりがなを付けてイラストを入れたポップなデザインにします。デザインは東北芸術工科大学の学生の方をお願いしたいです。山形にゆかりのある学生の皆さんが描く唯一無二のデザインは、かるたで遊ぶ人の心をつかんでくれるはずで

す。個数を100セットとして費用の

計算をすると、印刷代は176,000円(1セットあたり1,760円)、印刷会社から協力をいただければ、一緒に地域貢献ができるのではないのでしょうか。完成したかるたは小学校や学童保育、図書館などの公共施設に設置し、道の駅や物産館での販売も考えています。広報用のポスターやパンフレットもあわせて考えていきたいです。

みんなが尊重し合って 生きていける山形県に

「やまがた手話かるた」を作るにあたって、山形県聴覚障がい者情報支援センターの皆さんに話を聞き、協

力していただきました。また、山形県学校への訪問では、生徒の皆さんや先生方と交流し、手話で意思疎通を図ること以外は私たちと何も変わらないと実感しました。

山形県では平成29年に「山形県手話言語条例」を制定しています。これは聴覚障がい者と聴者が共生することのできる地域社会の実現を目指すものです。SDGs が注目され、多様性が求められている近年ですので、こうした点からも、みんなが尊重し合って生きていける山形県を実現していくための一つの方法として、手話はとても必要なものだと思

います。

手話を身近に、 コミュニケーションツールとして

かるたを通し、子どもから親世代、祖父母世代にも手話が広まっていくことが期待できます。山形の魅力とともに手話を広めることで、手話が特定の人だけのものであるという認識を変え、手話を身近なコミュニケーションツールとして捉えていくことが大切です。そして、そのことが、誰もが暮らしやすい山形を実現するための第一歩になると確信しています。

COMMENT 審査員コメント

手話と山形、共生社会、多様性まで様々な角度で捉えた魅力ある取組みだと感心しました。今回の経験で得た”境目のない人と人のつながりや付き合い方など、想いの部分を大切に、手話を日本一理解できる県を目指して頑張ってください。手話を使う方が山形を訪れた時に対応できるようになると、山形の新しい魅力につながるのではないのでしょうか。

IMPRESSIONS メンバーの感想

アイデアをたくさん褒めていただき、私たちが一年弱取り組んできた活動は間違っていなかったと気づきました。山形には思っていた以上に面白いことがたくさんあり、うまく活用していくことで、誰もが幸せに暮らせる可能性の

詰まった場所です。コンテストをきっかけに自分の生活を見つめ直すことができ、新たな視点で物事を見るようになりました。



「やまがた手話かるた」とは？



読み手が山形に関する言葉を
手話で表現するかるた

誰でも楽しみながら
山形と手話を学ぶことができる

食、自然、文化、言葉etc.



山形県立置賜農業高等学校

2年 橋本 綾寧 さん

2年 佐藤 妃那 さん

2年 前柳 あいか さん

THEMA

発表テーマ／内容

おせっかいなお花屋さんプロジェクト

授業の中から生まれた

地域の課題

私たちが学ぶ園芸福祉科では園芸と福祉の両系統の授業があり、園芸では花苗の生産、販売実習を、福祉では介護実習や車椅子での実習、介護食の調理実習などを行っています。実際に町内の各家庭を訪問することもあり、高齢者の独居世帯、老老介護世帯、認知症傾向や引きこもり傾向にある高齢者の生活に触れる

機会が多くあります。このような経験を通して、川西町を高齢の方も安心して暮らしていける町にしたい、そのために自分たちにも何かできることがあるのではないかと考えるようになりました。

花を届け、地域の

高齢者を見守っていく

そこで思いついたのが、自分たちで育てた花を各家庭に届け、コミュニケーションをとることで地域の高

齢者を見守っていこうという活動です。私たちにできるのは、きれいな花を届けて暮らしを彩ること、花の管理のために一軒一軒を回り、高齢者の方々と話をする、草花の力で、日々の生活に癒しを与えることです。そして、やり取りをする中で聞いた困りごとは、川西町の福祉課や社会福祉協議会と共有することもできます。

募金や協賛を呼びかけ

継続的な活動を

これらの活動を実現していくための大きな課題は2つです。継続して取り組んでいくための経済的なプランの作成と、高齢者の生活の部分に入り込んでいくため、個人的なことを高校生相手に心を開いて話してくれるかということです。継続性については、募金活動を一つの解決策として考えています。例えば、ダリアの研究で連携している川西ダリア園のイベント開催時や、全校一斉の奉仕活動の時などにも募金の呼びかけが

可能だと思います。さらには、協賛企業(介護施設や病院など)を募り、協力いただいたスポンサー名を入れたプランターを鉢植えにして花を届けることも考えています。心を開いてもらうためには短期間で完結させようとせず、継続して訪問することで少しずつ距離を近づけていくことにします。私たち一人ひとりがコミュニケーションなどのスキルを磨くトレーニングを受けることができれば、さらに責任感が生まれ、活発な活動につながられるかもしれません。

草花を使って

私たちの描く未来を

草花の活用を通し、「安心して住み続けられる町」「人と人とがつながる共助の町」「潤いと癒やしに満ちた町」にする、これが私たちの描く未来です。幸せな町をつくれるように『おせっかいなお花屋さん』を目指します。

COMMENT

審査員コメント

日頃勉強していることを活かして、いかに地域を良くしていくかを考えたところがすばらしいと思いました。高齢者にも間違いなく喜ばれるアイデアです。継続的な活動をについて考えることも必要ですが、まずはやってみることが大事です。すばらしい取組みに共感して協賛してくれる企業や個人もいらっしゃると思います。クラウドファンディングを活用するなど方法もありそうです。

IMPRESSIONS

メンバーの感想

コンテストでは、他の高校生の発表がとても参考になりましたし、発表までの準備期間でアイデアを深めたり、大学生と意見交換したり、様々な経験ができました。高齢化が進む山形県で、高齢者が安心して暮らすことはと

ても大切です。私たちのアイデアで高齢者と高校生が交流することでお互いに生活の刺激となり、老若男女が生涯生き生きと暮らし、幸せを共有できるのではないのでしょうか。



1. 私たちのアイデア

販売実習で高齢者のお宅へ
そこで目にしたのは...



独居世帯・老老世帯
認知症・引きこもり

私たちにできることって何だろう？



山形県立山形東高等学校

2年
山崎 公華 さん2年
槇 ちひろ さん

THEMA

発表テーマ／内容

たべて防ぐ認知症

認知症と味覚の関係に注目
高齢化社会を支えるために

山形県の高齢化率は33.4%(令和元年調べ)と全国と比較しても高く、その中で大きな問題の一つが認知症です。5人に1人になると言われる認知症は、まだ解明されていないことがたくさんあります。今回、私たちは味覚と認知症の関係に注目しました。なぜなら、味覚障害の原因の一つである亜鉛不足は認知症患者にも見られるからです。山形市内の開業

医の先生に伺ったところ、「亜鉛を摂取したからといって認知症を完全に予防できるわけではないが、亜鉛不足は認知症になる数ある原因の一つと言えるだろう」という回答をいただきました。これらのことを踏まえ、認知症と味覚の関係から、山形県の高齢化社会をより良くするためのアイデアを提案します。

認知症の予防、改善に
カギを握る亜鉛とは？

そもそも、亜鉛は脳内にどんな作

用をするのでしょうか。亜鉛はイオンで存在するものもあれば酵素やたんぱく質と結合して存在しているものもあります。神経興奮時にグルタミン酸とともに放出され、NMDA型グルタミン酸受容体に結合して興奮制御に働き、近隣のシナプスに伝播することで記憶に重要な役割を果たすと考えられています。

亜鉛の摂取量を
可視化する

私たちが目指すのは、食事の改善

はもとより、認知症予防の意識を高めることです。そこで、重要な役割を持つ亜鉛不足を解消するため「亜鉛の摂取量を管理するノート」を考えました。

使い方ですが、まず1週間に食べたものとそれに含まれる亜鉛の量を記録します。その後、1日の亜鉛摂取目安量と比較して足りない分の量を補えるようなメニューを考えるという流れです。ノートには食材ごとに100gあたりの亜鉛含有量が表記されています。鶏モモ肉の亜鉛含有量は100gあたり1.6mg、300gの鶏モモ肉で唐揚げをした場合、1.6mg×3と記録することで亜鉛の

量が可視化できます。私たちもノートを使って記録してみると、一日に必要な亜鉛の量が普段の食事ではなかなか摂取できていないことに気がつきました。

認知症、食や栄養に興味を持つきっかけに

食事で認知症を予防するとなると、薬などと違って即効性があるわけではないので、私たちの親世代や若い方にも食習慣として取り入れてもらい、自然に予防できたらいいと思います。また、家庭で食事を考えていくことで認知症について知り、食・栄養に興味を持つことにつながる、それが理想です。

亜鉛を摂取できる

レシピの考案も

このノートを行政の方にも見てもらい、ノートをつくることになった背景や、出典を明記したほうがいいのかとのアドバイスをいただきました。高齢の皆さんに使ってもらえるようさらに改善していきます。シミュレーションを参考に亜鉛をバランスよく摂ることができるレシピも考案していきたいです。

高齢化が進んでいる山形県で、高齢者が元気に過ごしやすいライフスタイルの確立を期待しています。

COMMENT

審査員コメント

医療系の探究は慎重にならなければならない、ものすごく難しいテーマです。そうした中で、医師や専門の方のアドバイスがあったのはとても良いと思いました。具体的な施策としてノートを活用してもらうことでアウトプットしていくという一つの形になっていて、すごく良かったです。

IMPRESSIONS

メンバーの感想

「認知症患者の方で味が分からなくなっている人が多い」ということを耳にし、詳しく知りたいと思ったのが、このテーマを選んだきっかけです。普段の食事で予防ができるなら高齢化が進んでいる山形には特に必要なことだと感じました。

今回、他グループのアイデアを聞き、住んでいて普通だと思っているモノ、コトが山形の観光資源になることや、他県や海外から来る方にとっては魅力であることに気づくことができました。



04 使い方

SUN

食事

1日の亜鉛摂取目安量	
18歳以上の女性	8mg
18-74歳以下の男性	11mg
75歳以上の男性	10mg

引用:日本人の食事摂取基準(2020年版)

① 1週間の食べたものとそれに含まれる亜鉛の量を記録する

② 1日の亜鉛摂取目安量と比較して足りない分の量を補えるようなメニューを考える